科目名	疾病と予防Ⅰ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	鎌田みゆき
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼一）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	OMRCにてドルフィントレーナー、ネイチャーガイドとして勤務						
授業の学習内容	飼育現場において、“獣医師に必要とされる”および“獣医師の良きパートナーとして共に仕事ができる”スタッフは重宝される。動物にとってより良い環境を創っていけるよう、当科目では専門書、資料画像、動画などを用いた講義を主軸に鯨類の基本的な体の構造と各臓器の生理と働きについて学び、経験談を交えてハズバンダリーでの採血の模倣や解剖における作業など、実践的な練習も行う。						
到達目標	・陸棲哺乳類とは異なる体の仕組みや臓器形態について説明することができる・就職した際に現場で即戦力となるため、採血での針の刺し方や取り上げでの担当持ち場、解剖でのアシストを行うことができる						
評価方法と基準	定期テスト　60% 授業態度（あいさつ、返事、質問、取り組み姿勢）　40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	ガイダンス　授業内容と目標を理解する	
2	4月25日	講義と演習	アニマルケアーの重要性の理解①取り上げにて役割別に動くことができるようになる	イルカぬいぐるみ
3	5月9日	講義	アニマルケアーの重要性の理解②ハズバンダリーについて説明することができる	
4	5月16日	講義	水族館における海獣類の検査の種類について学び、列挙することができる	
5	5月23日	講義	鯨類の骨格について詳細を学び、標本の作成方法にも触れる	全身骨格チェック用ワークシート
6	5月30日	講義と演習	舌・口腔・歯について理解し、飼育鯨類の口内チェックが実施できるようになる	口内チェック用ワークシート
7	6月13日	講義	消化器系（胃）について理解し、図説ができる	
8	6月20日	講義と演習	消化器系（腸）について理解し、病理部分の組織標本の作成を体験する	豚ホルモン、メス、ハサミ、トレー、発泡スチロール、虫ピン、医療用手袋
9	6月27日	講義	肝臓と分解の仕組みについて理解する	
10	7月4日	講義	胆嚢・膵臓について理解し糖尿病と関係づけて説明することができる	
11	7月11日	講義	腎臓・尿管・膀胱・尿道について理解し、尿検査の方法に触れる	
12	7月18日	講義	呼吸器系（鼻腔・咽頭・喉頭）について理解し、分類することができる	
13	8月29日	講義	呼吸器系（肺）について理解し、心臓との関連を説明することができる	
14	9月5日		前期テスト	
15	9月12日	講義	ふりかえり	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

Atlas of the Anatomy of Dolphins and Whales、イルカの解剖学、解剖写真、標本、iphoneコネクター、スクリーン

科目名	疾病と予防Ⅱ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	鎌田みゆき
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼ー）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	OMRCにてドルフィントレーナー、ネイチャーガイドとして勤務						
授業の学習内容	飼育現場において、“獣医師に必要とされる”および“獣医師の良きパートナーとして共に仕事ができる”スタッフは重宝される。動物にとってより良い環境を創っていけるよう、当科目では専門書、資料画像、動画などを用いた講義を主軸に鯨類の基本的な体の構造と各臓器の生理と働きについて学び、経験談を交えてハズバンダリーでの採血の模倣や解剖における作業など、実践的な練習も行う。						
到達目標	・陸棲哺乳類とは異なる体の仕組みや臓器形態について説明することができる・就職した際に現場で即戦力となるため、採血での針の刺し方や取り上げでの担当持ち場、解剖でのアシストを行うことができる						
評価方法と基準	定期テスト　60% 授業態度（あいさつ、返事、質問、取り組み姿勢）　40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義	チームワークの重要性と円滑な人間関係を築くためのコツを学ぶ	ソーシャルスタイルを用いたブレインストーミングを行う
2	10月3日	講義	循環器（心臓）について理解し、血液循環の図説ができる	
3	10月10日	講義と演習	採血について学び、尾鰭の模型を作成してハズバンダリー採血（Ｈｂ）の練習をする	２３G翼状針、シリンジ、スピッツ管、ダンボール、ハサミ、カッター、マジックペンな
4	10月17日	講義と演習	血液データの見方について学び、検査結果を基に何の異常か予測をたてることができる	
5	10月24日	講義	生殖器（オス）の仕組みを理解し、精子採取のハズバンダリーについて学ぶ	
6	10月31日	講義	生殖器（メス）の仕組みを理解し、人工授精について学ぶ	
7	11月14日	講義	脳の構造と仕組み、各部者における役割について説明ができる	
8	11月21日	講義と演習	筋肉の付き方と運動との連動について理解する	油粘土、粘土ヘラ、ダンボールなど
9	11月28日	講義	感覚器（眼）について理解し、説明することができる	
10	12月5日	講義	感覚器（耳）について理解し、説明することができる	
11	12月12日	講義	解剖の種類を分類し、手順について学ぶ	臓器位置確認ワークシート
12	12月19日	講義	解剖時における各臓器の所見とその意味を理解する	
13	1月16日	講義	病変臓器、部位の症例を学ぶ	
14	1月23日		後期テスト	
15	1月30日	講義	ふりかえり	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

Atlas of the Anatomy of Dolphins and Whales、イルカの解剖学、解剖写真、標本、iphoneコネクター、スクリーン

科目名	種別生態基礎Ⅰ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　俊郎
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科２年制（昼ー）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	東京タワー水族館から、ひかるアクアリューム、サッドアルバーリ、ハナマサ店長、南米、ドイツ、スリランカの水草を輸入						
授業の学習内容	魚という様々な特徴、生態を持つ生物を、販売・展示していく上で必要な知識を得る						
到達目標	分類ごとの特徴、生態等を覚え、それらを展示・販売促進につなげられるようになる						
評価方法と基準	筆記試験、出席率によるが、場合より、販売・展示等をクラス内発表し、その内容により評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	カラシン類について	各魚類にどんな種が存在するのか
2		講義		
3		講義		
4		講義	チョウチョウウオ類について	
5		講義		
6		講義	キンチャクダイ類について	
7		講義		
8		講義	コイ目魚類について	
9		講義		
10		講義	カダヤシ目魚類について	
11		講義		
12		講義	スズキ目カワスズメ科について	
13		講義		
14		試験	筆記試験	
15		振り返り	振り返り、ウィークポイントを知る	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	販売基礎Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇惠野雅子
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科２年制（昼ー）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	NECグループで福利厚生を行う大型店舗店長を経て、店舗教育などを行い、販売士1級を取得後、専門学校で講師を行う						
授業の学習内容	売場担当者・販売員として、小売店舗で必要とされるスキル、基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を身につけてることにより、販売店で必要とされる人材にならないと、販売業務に携わった際、何もできなくなるため、 お店で一番必要とされるマーチャンダイジングを中心に理解してもらえる内容です。 ①商品の仕入れ、に際して計算される原価や値入り率などの計算を繰り返し行う。 ②商品回転率を理解することで、品揃えや、仕入れる量、在庫の考え方を理解する。 ③商品のディスプレイなどに伴う、ゾーニングの基本を覚える。　　④お客様がどうやって商品を選ぶのかを知る。						
到達目標	基本的な商品に対するコストと利益を考え、販売戦略など基本的なことは考えられるようにする。 ジュアルマーチャンダイジングを中心として、店舗での商品管理を理解する。 客様にどのように商品を紹介すると喜んでもらえるかなどを理解し実践で役立てるようにする。						ビ お
評価方法と基準	授業内での提出物　30%、小テスト(授業内クイズ） 30%、 期末テスト 30%、　授業態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義	半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解し、今の現状を知る。	
2	4月23日	講義	今の現状からお客様の考えを探る	計算（消費税）
3	5月8日	講義	お客様の嗜好の変化	計算（割引）
4	5月14日	講義	お客様と販売店の関係性・時間のとらえ方	計算（仕入れ原価）
5	5月21日	講義	お店に置く商品とコンセプト	計算（原価計算）
6	6月4日	講義	品揃えとディスプレイ	計算（①値入り率）
7	6月11日	講義	商品売価の設定方法棚割り	計算（②値入り率）
8	6月18日	講義	ディスプレイの考え方、色と光源 商品の見せ方	計算（商品回転率）
9	6月25日	Aダイビング講義	売場作りの基本と実践	計算復習
10	7月2日	Bダイビング♡		計算復習
11	7月9日	講義	店内の音、温度、香りなどやお客様が望む、店員の態度とは	
12	7月16日	講義	売れる陳列方法	計算（交差比率）
13	8月27日	講義	期末テスト前の復習	
14	9月3日	講義	前期期末テスト	
15	9月10日	講義	振り返り	
準備学習　時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
リテールマーケティングハンドブック3級.2級　陳列の教科書他				

科目名	販売基礎Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇惠野雅子
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・コース	エコ・コミュニケーション科２年制（昼一）						
教員の略歴	NECグループで福利厚生を行う大型店舗店長を経て、店舗教育などを行い、販売士1級を取得後、専門学校で講師を行う						
授業の学習内容	会社で利益を出していかなくては、会社が存続できず、せっかくみなさんが働きだしても、お給料がもらえなくなります。そのために、会社、又はお店全体での継続的な利益を出すためにはどうするべきかを、学ばなくてはいけません。　会社で必要とされる人材になってもらうための授業です。 例えは、商品を仕入れる時の経費から、それを売るための売価設定、それにより、どの位の利益が見込めるのか。通常の商品販売と違い、生きた魚を仕入れる。などの特殊な商品を仕入れる業界なので、損益計算がある程度理解できるようにするための、計算がちょっと多めの授業です。						
到達目標	基本的な店全体のコストと利益を考える。お店のコストの中心は人件費です。人件費などの経費を含め、店舗全体の販売戦略の基本を知り、それを元に、自分なりのアイディアを考えられるようにする。マーケティングの基本を学び、実際の販売で役に立つ人材になるようにする。　働く上で、自分の人件費と労働がどう結びついていて、どう働かなければいけないか、希望のお給料と、現実のお給料の差を、店全体から見て理解し、店舗でどう出来るようにする。						
評価方法と基準	小テスト(授業内クイズ） 40%、 期末テスト 50%、 授業態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義	半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解し、今の現状を知る。	粗利計算
2	10月8日	講義	会社の組織はどうやって成り立っているか会社の儲けと人件費の関係性	ロスの計算
3	10月15日	講義	お店の利益の出し方（総括表）	計算（交差比率）
4	10月22日	講義	固定費と変動費の考え方	前期計算の復習（1）
5	10月29日	講義	限界利益から考える損益分岐点分析（CVP）	前期計算の復習（2）
6	11月5日	講義	お店でかかる経費を考えて店全体の利益を出すための目標売上の出し方	損益分岐点計算（1）
7	11月12日	講義	仕入れ価格と経費から、売価設定	損益分岐点計算（2）
8	11月19日	講義	お店の経費と利益などの関係を数字で理解。	損益分岐点計算（3）
9	11月26日	講義	損益分岐点計算	前期＋損益分岐点計算（1）
10	12月3日	講義	損益分岐点からどのように販売計画を立てるべきか。	前期＋損益分岐点計算（2）
11	12月10日	講義	移動平均・移動累計	総復習
12	12月17日	講義	後期期末テスト	
13	1月21日	講義	振り返り	
14	1月28日	講義	陳列の考え方	
15	2月4日	講義	値段の付け方	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	プレゼンテーションⅠ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	野崎広治
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	不動産会社・金融コンサルタントを経て、独立。現在は、キャリア相談、採用コンサル、企業研修講師などの活動を行う						
授業の学習内容	●プレゼンテーションと聞くと「発表」という印象が強いが、広く考えると「自分を表現する方法」である。人間関係、仕事など様々な場面において、より良い結果を導くための考え方、表現、発信の方法を学ぶ。 ●社会で必要とされること、就職後起こりうることをテーマとして取り上げる。自分の意見を伝える、他人の意見を聞く、対話においてお互いを尊重し、より良い結果につなる力を身につけ、実習や社会で必要とされる人材へと成長して欲しいと願う。 ●本授業は、講師と学生・学生同士のディスカッションなど双方向の展開とする。そのため、普段一緒にいる仲の良い友人以外の学生との交流、講師への発表などは率先して行うこと。授業の質を高めるか、こなすだけ授業にするかは、学生の取り組み姿勢も影響することを忘れないで欲しい。 ●知識と技術は授業で学んだだけでは、習得（自分のもの）にすることができない。使いこなすために、学んだことは日常生活で実践を兼ねた復習を必ず行うこと。※CSUと関連性がある内容も含むため、CSU学んだことは理解している前提で授業を進める。 ●授業内容は学生のリクエスト、状況を見て変更することがある。 ●スマートフォンを活用したワークを行う場合があるため、充電をしっかりしておくこと。						
到達目標	＜論理思考（ロジカルシンキング）＞ 発言・発表・資料・レポートなどの的確なアウトプットを目指す。物事を整理して正しくアウトプットする土台を作る						
評価方法と基準	授業運営に大きな変更が生じた場合は変更する場合がある。 ①試験：５０％・・・１００点を１/２ にする ②授業態度・提出物５０％ ※②について、授業中の睡眠・電子機器の無許可使用・隠れて使用・人を馬鹿にする行為・仲間外れは即０点とする ※提出日までに各自講師へ提出（毎回のアナウンスはしない）。欠席・公欠・分散登校・休講などの理由により、提出日までに提出できない場合は、講師控え室の講師トレーに提出すること（受付窓口に依頼） ※授業進行に影響のでる私語・授業態度の場合は、０点とし担任と面談の指示、座席の指定を行う ※①は評価表を用いて行う（評価項目、評価項目において基準を用いた評価） ※①②から最終評価を出す。（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 追試・・・筆記試験　※持ち込み不可						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	本授業の取り組み方がわかる プレゼンテーションの捉え方がわかる	状況に応じて設定
2	4月23日	講義・演習	論理思考①：論理の意味の理解、論理の流れがわかり、簡単な論理を作るすることができる	状況に応じて設定
3	5月7日	講義・演習		状況に応じて設定
4	5月14日	講義・演習		状況に応じて設定
5	5月21日	講義・演習	論理思考②：論理の意味の理解、論理の流れがわかり、論理を踏まえたプレゼンができる	状況に応じて設定
6	6月4日	講義・演習		状況に応じて設定
7	6月11日	講義・演習	資料作成：資料作成を作成し、原稿を読まずにプレゼンテーションができる	状況に応じて設定
8	6月18日	講義・演習		状況に応じて設定
9	6月25日	講義・演習	セルフマネジメント：物事の捉え方を学び、様々な事象に対して、効果的な解を出せる	状況に応じて設定
10	7月2日	講義・演習		状況に応じて設定
11	7月9日	講義・演習	グループプレゼンテーション① プレゼンに向けて情報収集を行う	グループ進捗により各自作業
12	7月16日	講義・演習	グループプレゼンテーション② 情報収集の続きと、発表資料作成	グループ進捗により各自作業
13	8月27日	講義・演習	グループプレゼンテーション③ 発表資料作成の続きと発表・フィードバック	グループ進捗により各自作業
14	9月3日	講義・演習	試験	なし
15	9月10日	講義・演習	評価の仕組みを知る。前期の振り返りを行い、学びの言語化、後期へ向けた行動を明確にし成長につなげる	後期の学生生活の過ごし方を考える
準備学習　時間外学習			授業前課題・授業後の課題などあり。適宜提示	

【使用教科書・教材・参考書】

講師作成資料　　Teams　　※PC、スマートフォン、タブレッドなどの電子機器は許可した場合のみ使用可能

科目名	プレゼンテーションⅡ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	野崎広治
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間(単位)	30 1		
教員の略歴	不動産会社・金融コンサルタントを経て、独立。現在は、キャリア相談、採用コンサル、企業研修講師などの活動を行う						
授業の学習内容	＜学習内容＞ ・講義の最初に１分間プレゼンテーションを行う。講師の指示に従い、プレゼンターに指名された学生は速やかに準備をすること。発表テーマは前週に課題として提示する。期日までに各自プレゼンを作成しTemasに退出すること。 ・発表、情報発信、広報、企画など様々な側面からのプレゼンテーション手法を学ぶ ＜授業の留意点＞ ・欠席の場合、資料はTeamsから確認するか、友人から資料を借りてコピーすること。 ・課題についてもTeamsから該当資料をダウンロードし、期日に提出すること。実習・欠席していたので受け取っていないという理由は受けつけない。 ・授業内容は状況に応じて内容・順番等変更することがある。 ・Teams による質問回答については～４８時間程度かかることがあるため、質問や相談がある場合は早めに質問、相談を行うこと。履歴書の添削については、順番に行うため状況によってはさらに時間がかかることがある。						
到達目標	①人前で自分の意見を発信することができる。質疑応答ができる。 ②様々な場面に適したプレゼンテーションができる						
評価方法と基準	外部環境要因により授業運営に大きな変更が生じた場合は変更する場合がある。 ①試験：５０％・・・１００点を1/2 にする ②提出物３０％ ・提出記期日まで提出（毎回のアナウンスはしない）。欠席・公欠などの理由により、提出日までに提出できない場合は、講師控え室の講師トレーに提出すること（受付窓口に依頼） ・１分間プレゼンテーションの課題において、課題提示～課題締切まで全ての期間が公欠の場合は公欠として認める。その場合は、提出欄に「公欠」と「公欠の期間」を記載して提出すること。あるいは、事前に講師へ申し出ること。それ以外は未提出と判断する。 ③プレゼンテーション10％ ・1分間プレゼンテーションの不正行為（コピペ等）は加害者・被害者ともに０点とする。 ・プレゼン作成においてChatGPTをはじめとする生成AIのコピペは禁止する。約８０％以上のコピペが見られる場合は不正行為とする ④授業態度１０％ ・授業中の睡眠・電子機器の無許可使用・隠れて使用・人を馬鹿にする行為・仲間外れは即０点とする ・授業進行に影響のでる私語・授業態度の場合は、０点とし担任と面談の指示、座席の指定を行う						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	①後期授業の取り組みの準備 ②基本ビジネスマナー	時間外学習：プレゼンテーションの作成 ビジネスマナーの実践
2		講義・演習	①1分間プレゼンができ、聞き手はプレゼンの評価ができるようになる。（今後毎回実施） ②神経言語・心理学を活用したプレゼンテーション・コミュニケーションを取る方法がわかる	時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
3		講義・演習		
4		講義・演習	①個人プレゼン実施（第２回同様） ②身体表現、感情表現をプレゼンで実践できる	時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
5		講義・演習		時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
6		講義・演習	①個人プレゼン実施（第２回同様） ②DiSC理論を活用したコミュニケーション・プレゼンテーションができる	時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
7		講義・演習		時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
8		講義・演習	①個人プレゼン実施（第２回同様） ②クリエイティブシンキング・イノベーション思考を活用し、新規ビジネス、サービスを見出す	時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
9		講義・演習		時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
10		講義・演習	①個人プレゼン実施（第２回同様） ②テーマ別企画／情報提供商材の作成＆発表 ・与えられた課題を解決するための企画ができるようになる	時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
11		講義・演習		時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
12		試験	試験実施（６０分）	Teamsあるいは対面実施予定
13		講義・演習	①個人プレゼン実施（第２回同様） ②テーマ別企画／情報提供商材の作成＆発表 ・与えられた課題を解決するための企画ができるようになる	時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
14		講義・演習		時間外学習：プレゼンテーションの作成（Teams） その他状況に応じて設定
15		講義	振り返り・次年度／社会人へ向けての準備	後期の学生生活の過ごし方を考える
準備学習　時間外学習			授業前課題・授業後の課題などあり。適宜提示	
【使用教科書・教材・参考書】				
講師作成資料　Teams　※PC、スマートフォン、タブレッドなどの電子機器は許可した場合のみ使用可能				

科目名	応用行動分析学Ⅰ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	落合知美
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間(単位)	30 1		

教員の略歴	農学修士、大学勤務（京都大学霊長類研究所、東京大学農学研究科、武庫川女子大学）、NPO法人市民ZOOネットワーク理事
授業の学習内容	動物は名前の通り「動く物」であり、その動き(行動)を科学的に理解することは、動物を正しく理解することにつながる。動物種それぞれの行動は、生息環境やその変化に合わせ、長い時間をかけて選択され、淘汰され、進化してきた。そのため、動物を飼育する場合、その行動とともに生態や社会の理解がとても重要となる。 本講義では、心理学(Psycology)や動物行動学（Ethology）の学問を基本として、ヒトを含む動物種全体について学ぶとともに、行動分析学に至るまでの行動の科学的な捉え方について学ぶ。授業はZOOMでおこない、授業時間中にレポートを完成させ提出する。
到達目標	・動物園の動物種ごとの行動について理解する ・動物行動学（Ethology）の概要を知る ・スキナーの心理学(Psycology)について知る ・アニマルウェルフェアや環境エンリッチメントについて理解する ・自分の意見や感想を表現することができる
評価方法と基準	授業ごとのレポートと授業態度　20% 学期末の筆記試験　80%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	イントロダクション：教員の紹介と前期の授業内容、講義の進め方について	自分の考えを表現する方法について
2	4月25日	講義	家畜と野生動物の行動の違い。進化の基本と、淘汰と選択について学ぶ。	さまざまな飼育動物について知っておく。動物（ヒトも含む）の行動に興味を持ち、考える
3	5月9日	講義	動物園動物に発現する行動と、その問題について。常同行動について知る。	
4	5月16日	講義	動物行動学（Ethology）の歴史。ローレンツやティンバーゲンについて知る。	
5	5月23日	講義	スキナーの心理学。オペラント条件づけや強化スケジュールについて理解する。	
6	5月30日	講義	チンパンジーのショー利用。実際におこなわれている馴致や調教について知る。	実際の映像などを見て、動物飼育やパフォーマンスについて正しく理解し、考える
7	6月13日	講義	本能と学習、社会行動について。事故事例や引退個体の問題について。	
8	6月20日	講義	動物園のゾウは幸せなのか？井の頭自然文化園はな子さんの例を参考に。	
9	6月27日	講義	アニマルウェルフェアについて。動物福祉と動物の権利、功利主義の考え方について。	アニマルウェルフェアや環境エンリッチメントについて正しく理解をする。 さまざまな考え方について理解する
10	7月4日	講義	初期の環境エンリッチメント：ハル・マーコウィッツからシェファードソンまで	
11	7月11日	講義	環境エンリッチメント：その内容と5つのカテゴリー、動物種ごとの行動を理解する	
12	7月18日	講義	環境エンリッチメント：日本の動物園と環境エンリッチメントの発展を知る。	日本の動物園で実施されている環境エンリッチメントについて関心を持つ
13	8月29日	講義	≪復習≫動物の行動を理解し、環境エンリッチメントに至るまでの道筋を理解する	今までの講義の疑問点を明らかにしておく
14	9月5日	**講義・試験**	テスト対策・６０分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	9月12日	**講義**	テスト結果からの振り返り、後期に向けて	試験範囲からの復習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】 いま動物園がおもしろい（2004）市民ZOOネットワーク、動物翻訳家（2015）片野ゆか
ソロモンの指輪：動物行動学入門（1949）コンラート・ローレンツ、生物から見た世界（1933）ユクスキュル、クリサート著

科目名	公衆衛生	必修選択	選択	年次	2	担当教員	髙山清次
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	麻布大学大学院博士課程修了（獣医学博士）						
授業の学習内容	疾病や健康増進のしくみを学び、理解し明確な知識を持って、動物関係の仕事をする時はもちろんのこと、日常生活においても、この知識を役立てる。						
到達目標	この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、公衆衛生の知識を持って、行動できることを目標とする。						
評価方法と基準	定期試験の結果（80％）に平常点（20％）を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義	公衆衛生の概要を把握する。	講義範囲の予習・復習をする。
2	4月26日	講義	動物のよい飼育環境を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
3	5月10日	講義	①環境衛生について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
4	5月17日	講義	②環境衛生について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
5	5月24日	講義	疾病の定義について述べることができる。	講義範囲の予習・復習をする。
6	5月31日	講義	防疫について、実践できる。	講義範囲の予習・復習をする。
7	6月14日	講義	①消毒のしくみについて理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
8	6月21日	講義	②現場において、消毒について実践することができる	講義範囲の予習・復習をする。
9	6月28日	講義	①病原体について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
10	7月5日	講義	②病原体について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
11	7月12日	講義	ワクチンの仕組みについて述べることができる。	講義範囲の予習・復習をする。
12	7月19日	講義	①ズーノーシスを理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
13	8月30日	講義	②ズーノーシスの予防を実践することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
14	9月6日	試験	講義範囲の評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	9月13日	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習　時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。				

科目名	疾病と予防Ⅰ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	岩田光一
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	北里大学獣医畜産学部獣医学科卒　獣医師　学会員　伊豆シャボテン公園元園長　（公社）日本動物園水族館協会会友　（公社）日本植物園協会名誉会員　（一財）進化生物学研究所客員研究員						
授業の学習内容	疾病と予防　総論 疾病とはどういったことなのかを理解した上で、総論としてどういった疾病があり、動物に係る者として基本的にどういったことをしなければならないのか（予防と対処）を講義していく						
到達目標	予防の重要性を認識し、日頃から何をすべきかを意識でき、行動できるようすする。						
評価方法と基準	定期試験を基本100％とするが課題や講義への姿勢も加味する。 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義	疾病とは、	
2	4月24日	講義	人と動物の共通感染症（ズーノーシス）	厚生労働省HPより動物由来感染症ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ2024をﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞし見ておく
3	5月8日	講義	人と動物の共通感染症（ズーノーシス）	動物由来感染症ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ2024をよく読んでおく
4	5月15日	講義	疾病の予防総論	
5	5月22日	講義	疾病と治療	
6	6月5日	講義	疾病の予防詳細	
7	6月12日	講義	疾病の予防詳細	
8	6月19日	講義	感染症に対する対処	
9	6月26日	講義	疾病の発見	
10	7月3日	講義	疾病の治療（ﾊｽﾞﾊﾞﾝﾀﾞﾘｰﾄﾚｰﾆﾝｸﾞなども）	
11	7月10日	講義	感染症予防（防疫の原則や消毒）	
12	7月17日	講義	寄生虫症について	
13	8月28日	講義	前期復習ならびに定期試験に向けて	
14	9月4日	試験	前期定期試験	
15	9月11日	講義	前期定期試験解説	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

動物由来感染症ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ2024（厚生労働省）、改訂版新・飼育ハンドブック1、5

科目名	疾病と予防Ⅱ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	岩田光一
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	北里大学獣医畜産学部獣医学科卒　獣医師　学会員　伊豆シャボテン公園元園長　（公社）日本動物園水族館協会会友　（公社）日本植物園協会名誉会員　（一財）進化生物学研究所客員研究員						
授業の学習内容	疾病と予防　各論 動物園や観光牧場などの動物飼育施設において実際に発症し得る疾患について、その原因や対処、そして予防について講義を進めていく						
到達目標	実際に発症する可能性のある疾患を承知しておくことにより、予防に努めるとともに、もしもの時に冷静に適格な対処が取れるようになること						
評価方法と基準	定期試験を基本100％とするが課題や講義への姿勢も加味する。 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義	ショックとは、ショックへの対処	どういったことなのか想像しどうすべきかを考えてみる。講義後にしっかりと復習する
2	10月9日	講義	熱中症、輸送熱	
3	10月16日	講義	下痢、食物の適正・不適正	
4	10月23日	講義	馬の疝痛	
5	10月30日	講義	蹄の疾患	
6	11月6日	講義	鼓張症	
7	11月14日	講義	カンガルー病	
8	11月20日	講義	膿瘍	
9	11月27日	講義	咬合不正（過長歯）、鳥類の卵墜（卵管閉塞）	
10	12月4日	講義	繁殖期における外傷、出血	
11	12月11日	講義	食物・施設における中毒	
12	12月18日	試験	後期定期試験	
13	1月15日	講義	後期定期試験解説	
14	1月22日	講義	よくある寄生虫症	
15	1月29日	講義	講義まとめ	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

改訂版新・飼育ハンドブック1、5

科目名	畜産飼養Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	木戸伸英
学科・コース	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	北海道大学獣医学物卒業、獣医師、獣医学博士（学術）、中小企業診断士（登録前）、学芸員、簿記2級等 元青年海外協力隊（フィリピン）、元（公財）横浜市緑の協会勤務（金沢動物園、野毛山動物園）、現・MSK株式会社						
授業の学習内容	日本で飼育されている家畜の基本的な知識の習得を目指します。前期は特にウシとニワトリについて重点的に学習します。						
到達目標	畜産学の基本が理解できる。						
評価方法と基準	小試験ト20％ 定期試験ト80％ 筆記試験評価：GPA（A100～90　B89～80　C79～70　D69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		動画	自己紹介と講義内容を説明し、講義の目的を理解する。	
2		動画	日本における代表的な畜産動物と品種を理解する。	
3		動画	家畜の消化官の特徴と栄養生理について理解する。	
4		動画	家畜の飼育環境とその調整について理解する。	
5		動画	牛の特徴と骨格・解剖の基本について理解する。	
6		動画	牛の消化と吸収の基本について理解する。	
7		動画	牛の繁殖と泌乳の基本について理解する。	
8		動画	乳牛の飼育管理と育成の基本について理解する。	
9		動画	肉牛の飼育管理と育成・肥育の基本について理解する。	
10		動画	ニワトリの特徴と骨格・解剖の基本について理解する。	
11		動画	ニワトリの飼育形態と種卵の採取と孵化の基本について理解する。	
12		動画	ニワトリのひなの生理と育雛、採卵鶏の生理と育雛について理解する。	
13		動画	肉養鶏の生理と育雛について理解する。	
14		オンライン	テスト	
15		動画	テストの解説	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

新版家畜飼育の基礎

科目名	畜産飼養Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	木戸伸英
学科・コース	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	北海道大学獣医学物卒業、獣医師、獣医学博士（学術）、中小企業診断士（登録前）、学芸員、簿記2級等 元青年海外協力隊（フィリピン）、元（公財）横浜市緑の協会勤務（金沢動物園、野毛山動物園）、現・MSK株式会社						
授業の学習内容	日本で飼育されている家畜の基本的な知識の習得を目指します。後期は特にブタやその他家畜および飼料について重点的に学習します。						
到達目標	畜産学の基本が理解できる。						
評価方法と基準	小試験ト20％ 定期試験ト80％ 筆記試験評価：GPA（A100～90　B89～80　C79～70　D69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	ブタの特徴と骨格・解剖の基本について理解する。	
2		講義	ブタの飼育形態と子豚の生理と飼育技術について理解する。	
3		講義	肥育ブタの生理と飼育技術について理解する。	
4		講義	繁殖ブタの生理と飼育技術について理解する。	
5		講義	ウマの特徴について理解する。	
6		講義	ヤギ、ヒツジ、ダチョウの特徴を理解する。	
7		講義	飼料の種類・性質の基本について理解する。	
8		講義	飼料設計の基本について理解する。	
9		講義	ニワトリとブタの栄養と飼料の基本について理解する。	
10		講義	乳牛と肉牛の飼料と栄養の基本について理解する。	
11		講義	飼料作物の特徴、耕地型飼料作物の栽培の基本について理解する。	
12		講義	草地の維持・管理の基本について理解する。	
13		講義	飼料作物の調整と貯蔵の基本について理解する。	
14		講義	テスト	
15		講義	テストの解説	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

新版家畜飼育の基礎

科目名	動物園飼育論Ⅰ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	柴田和彦
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴							
授業の学習内容	動物園飼育が未経験の学生を講義の中で実際的な体験を伝達することによって将来の動物飼養管理を万全な姿勢で臨むことができる力をつける						
到達目標	1　管理下動物の日々の事象から的確な判断ができる即戦力を育てる 2　各事例から本質、根源を探り本質的な思考をする 3　個々タクソンに囚われず飼育の基礎知識、技術を学ぶ、考える 4　飼育の経験例に触れ個々のノウハウを学ぶ 5　飼育と言う仕事を通して自己の成長を図る						
評価方法と基準	定期筆記試験						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義	本年の授業目標	
2	4月24日	講義	動物の美醜について(pp使用)	飼育下の動物を注視しておく
3	5月8日	講義	ウサギについて	身近なウサギの飼育を考えておく
4	5月15日	講義	環境の設定について	環境とは何かを考えてておく
5	5月22日	講義	スリエについて	栄養配分について知っておく
6	6月5日	講義	晩成性鳥類の人工育雛	裸雛について考えておく
7	6月12日	講義	季節など自然現象について	日本の四季を知っておく
8	6月19日	講義	哺乳類について	他のタクソンの動物と比べておく
9	6月26日	講義	飼育の「方程式」について	自分で考える管理法を考えておく
10	7月3日	講義	鶉鶏の孵卵、育雛	鶉鶏の人工法を知っておく
11	7月10日	講義	繁殖について	繁殖とは何かを考えておく
12	7月17日	講義	サル山飼育について	サル山の特異性を考えておく
13	8月28日	講義	動物ガイドについて	他人への伝え方を学んでおく
14	9月4日	試験	試験	
15	9月11日	振り返り	振り返り	
準備学習　時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	動物園飼育論Ⅱ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	柴田和彦
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴							
授業の学習内容	動物園飼育が未経験の学生を講義の中で実際的な体験を伝達することによって将来の動物飼養管理を万全な姿勢で臨むことができる力をつける						
到達目標	1　管理下動物の日々の事象から的確な判断ができる即戦力を育てる 2　各事例から本質、根源を探り本質的な思考をする 3　個々タクソンに囚われず飼育の基礎知識、技術を学ぶ、考える 4　飼育の経験例に触れ個々のノウハウを学ぶ 5　飼育と言う仕事を通して自己の成長を図る						
評価方法と基準	定期筆記試験						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	動物の歴史について	個々の動物の生態などを知っておく
2		講義	和鳥飼育について	和鳥の食性、習性を学んでおく
3		講義	人工哺育について	晩成性、早成性動物の自然哺育の違いを予習する
4		講義	調教について	様々な調教のやり方、目標を知っておく
5		講義	飼育に臨む姿勢について	基本的に持つべき姿勢を理解
6		講義	分類について	「分類学」を学んでおく
7		講義	飼料について	飼料の種類、栄養素を知っておく
8		講義	展示の意味について	様々な展示法を学んでおく
9		講義	インコについて	維持飼育、人工育雛について学んでおく
10		講義	ノウハウについて	従来の飼育法を知っておく
11		講義	アヒル（水禽）について	ガンカモ飼育の特徴を知っておく
12		講義	己に求めるものについて	真摯に動物と向き合うには
13		講義	本質、根源について	本質、根源とは、を知る
14		試験	試験	
15		振り返り	振り返り	
準備学習　時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	繁殖生理学	必修選択	選択	年次	2	担当教員	髙山清次
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	麻布大学大学院博士課程修了（獣医学博士）						
授業の学習内容	動物の繁殖のしくみを学び、理解し明快な知識を持って、動物関係の仕事をする時はこの知識を役立てる。						
到達目標	この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、繁殖生理学の知識を持って、行動できることを目標とする。						
評価方法と基準	定期試験の結果（80%）に出席点・小テスト等（20%）を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	繁殖生理学の概要を把握する。	講義範囲の予習・復習をする。
2		講義	繁殖生理学についてホルモンの種類を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
3		講義	繁殖s生理学についてホルモンの作用を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
4		講義	雄の性成熟について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
5		講義	雌の性成熟について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
6		講義	発情周期を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
7		講義	各種動物の発情周期を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
8		講義	環境要因について生殖の内分泌に影響する要因を理解することができる①。	講義範囲の予習・復習をする。
9		講義	環境要因について生殖の内分泌に影響する要因を理解することができる②。	講義範囲の予習・復習をする。
10		講義	卵子と精子の受精現象を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
11		講義	妊娠について、着床と出産を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
12		講義	人工授精のメカニズムについて理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
13		講義	人工授精について、各種動物への応用について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
14		試験	講義範囲の評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15		講義	評価試験返却・解説・まとめ	講義範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習　時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。				